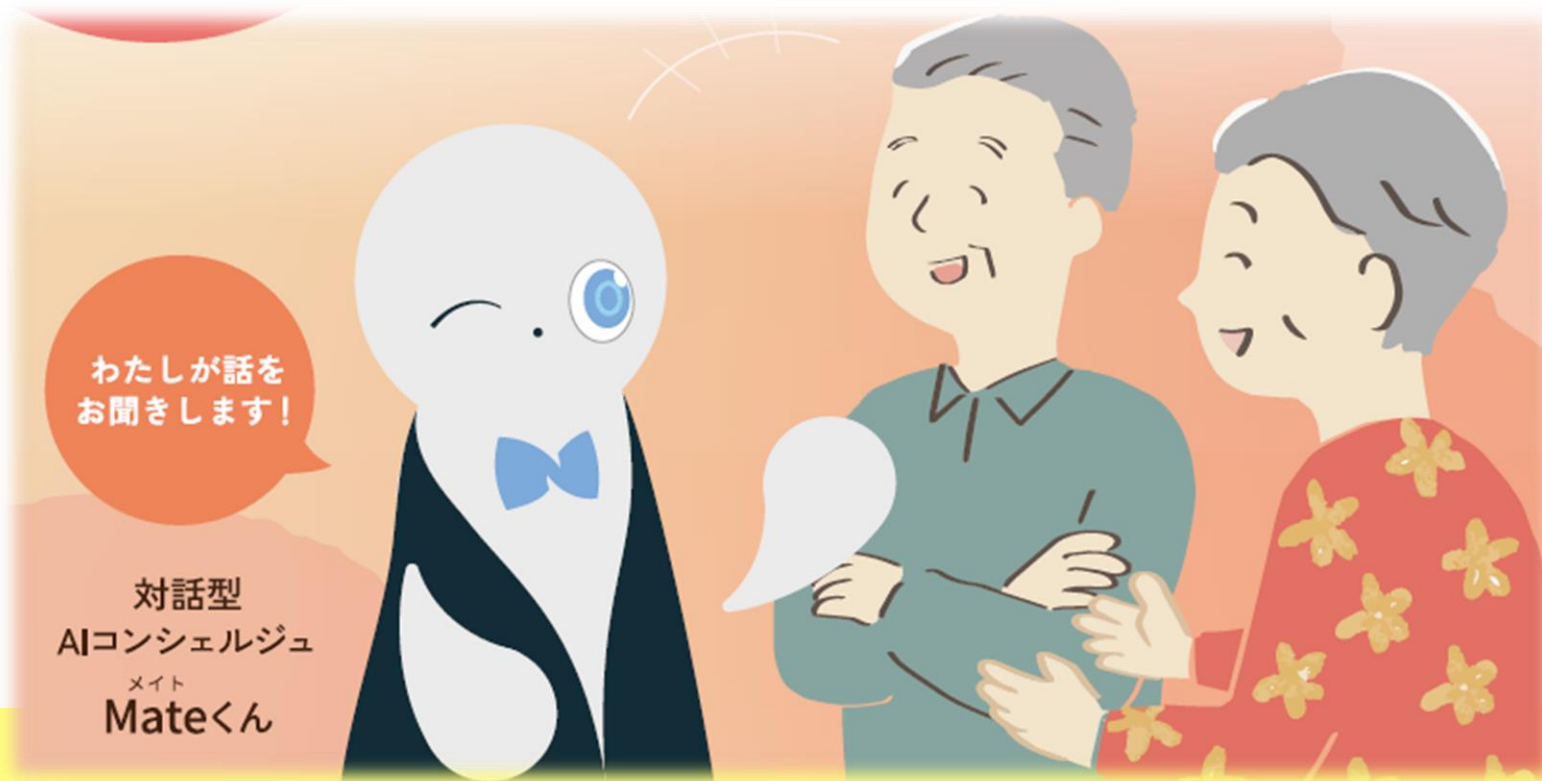




奈良市認知症高齢者等AI相談事業 を開始します

令和8年10月13日(火)
市長定例記者会見資料

奈良市における高齢者を取り巻く現状

奈良市 総人口

343,514人

高齢化率

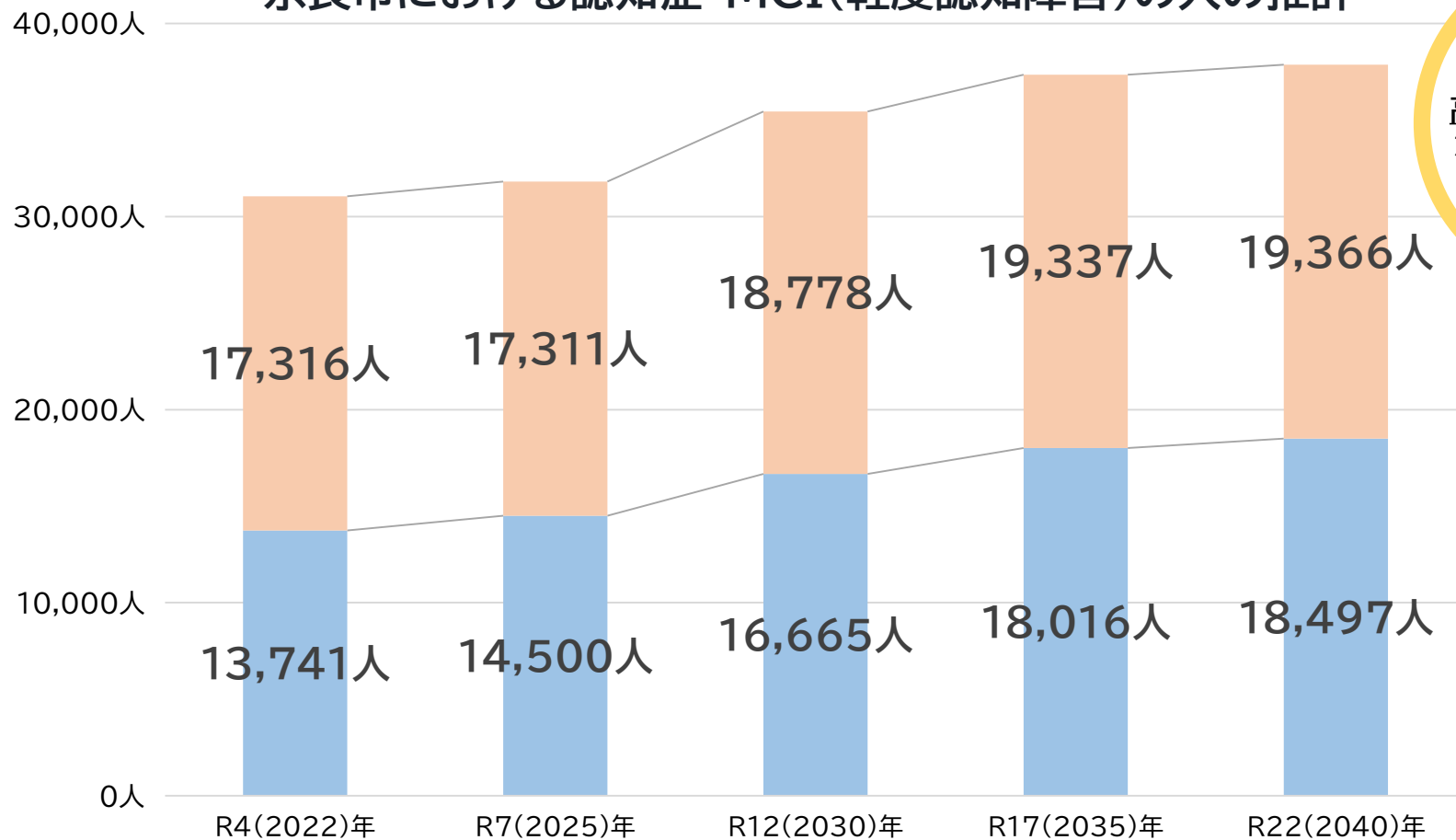
32.76 %

65歳以上人口

112,549 人

各令和8年10月1日時点
住民基本台帳による

奈良市における認知症・MCI(軽度認知障害)の人の推計



■ 認知症高齢者数 ■ MCI高齢者人口

令和12年頃には
高齢者の約3人に1人
が認知症またはMCI
の見込み

※「認知症及び軽度認知障害の有病率調査並びに将来推計に関する研究」(令和5年度老人保健事業推進費補助金 九州大学 二宮利治教授)に基づき、奈良市の65歳以上人口に有病率を乗じて算出。高齢者人口について、令和12年以降のものは推計値(「国勢調査及び社人研による推計人口」から引用)。令和4年、7年のものは、1月1日時点の値。

奈良市の主な認知症施策について

- ・ **平成18年度**
地域包括支援センターを設置（11か所）
- ・ **平成21年度**
認知症相談窓口を設置（「認知症の人と家族の会」に相談業務を委託）
- ・ **平成22年度**
認知症地域支援推進員を配置
- ・ **平成27年度**
認知症初期集中支援事業を開始
地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置（兼務）
認知症カフェ（地域のカフェの把握・交流会の開催などの後方支援）開始
- ・ **平成29年度**
高齢者人口の増加に伴い地域包括支援センター2か所（平城・富雄西）増設（計13か所）
- ・ **令和2年度**
認知症初期集中支援チームを地域包括支援センターに配置（1チーム体制から13チーム体制へ拡充）
認知症カフェを地域包括支援センターへの委託により実施
- ・ **令和4年度**
「認知症の人と家族の会」が行う、啓発活動（オレンジライトアップ、認知症フォーラム、その他の認知症に関する普及啓発活動）に対する補助金制度を開始

本市における主な認知症施策



○認知症カフェ

身近な地域において、気楽な雰囲気の中で、認知症の人や家族、地域住民、専門職など様々な人が集い、交流することができる場として、広く実施。

○安心・安全“なら”見守りネットワーク

地域の事業者と協定を結び、日常業務のなかでの異変や気づきを共有してもらうことで早期の適切な支援につなげていく取り組みと、行方不明時の早期発見に向けたネットワークづくりの取り組みを実施。

○本人ミーティング

認知症の当事者同士、家族同士が集い、思いや経験を語り合う場。行政職員が当事者や家族の声を聴き、施策に生かしていくための場でもある。令和6年度に開始。



本人ミーティングの様子

○認知症ケアパス ~知ってあんしん 認知症~

「認知症かもしれない」と思ったときから、診断後の生活や将来について考える際まで、本人や家族が必要な情報を得られるよう、相談・受診先、生活上の工夫、利用できる支援やサービスなどをまとめたガイドブックを作成・配布。

○世界アルツハイマーデーの啓発活動

毎年9月の認知症月間にあわせて、認知症の啓発活動を実施。

令和4年度より「認知症の人と家族の会 奈良県支部」への啓発活動への補助を実施。

認知症フォーラムや、市庁舎のオレンジライトアップ等を実施。



オレンジライトアップの様子（R4年度）

本市における主な相談窓口

○地域包括支援センター

高齢者に関する総合的な相談窓口。生活上の困りごとや心配ごとをお聞きし、必要に応じて、介護・福祉・医療などの関係機関やサービスにつなぐなど、必要な支援を行う。市内13圏域に設置されている。

（若草、三笠、春日・飛鳥、都南、北部、平城、京西・都跡、伏見、二名、登美ヶ丘、富雄東、富雄西、東部）

○認知症地域支援推進員

認知症の本人や家族からの相談に応じ、必要な支援や関係機関につなぐ。また、医療・介護・地域の関係者との連携や調整を行い、地域全体で認知症の人と家族を支える体制づくりを進める。市役所や地域包括支援センターなどに配置されている。

○認知症相談窓口

認知症の人と家族の会奈良県支部に委託して実施。介護経験を持つ相談員が、介護の不安や日々の困りごとなどを丁寧に聞き取り寄り添う。



相談に至るまでの課題とその解決方法

課題 1

夜間・休日につながらない
ふと悩みが思い浮かぶ夜間などの時間帯に、すぐ相談できる場がない

課題 2

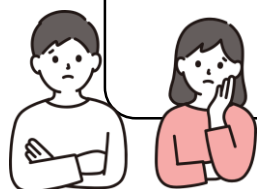
相談へのハードルの高さ
「誰かに話すのがしんどい」「対面・電話が苦手」など、既存の窓口に来られない

課題 3

支援へのアクセス格差
考えすぎて、自力では専門機関につなげられないことがある。

解決策

- ✓ 24時間365日AI傾聴
- ✓ 匿名で気軽に話ができる
- ✓ 相談でまとまった“会話”を手元に地域包括支援センター等で落ち着いて相談することで、具体的支援につなげることができる



困りごと・不安

(家族の様子が気になる / 誰かに話をきいてほしい / 何を相談したらいいかわからないなど)

まずはAIに気軽にお話

- ・傾聴・気持ちの受けとめ
- ・悩みや困りごとの整理
- ・必要な情報提供 など

LINE
または
WEB

(新)AIを活用した
相談ルート
(24時間365日)
※オンライン相談除く

(希望に応じて)《予約制》
専門職にオンラインで相談

必要に応じて
自ら支援機関へ

従来の相談ルート
(平日9時～17時)

電話や訪問で地域包括支援センター等の支援機関に相談



◆電話や対面での相談へのハードルが高い層や、気持ちを聴いてほしい層の受け皿に。

奈良市認知症高齢者等AI相談事業とは？

こんなことを
話してみませんか？

うまくまとまっていなくても大丈夫です。
今感じていることから、
そのまま話してみてください。

ご本人の不安

最近、物忘れが増えた気がする

認知症かもしれないと思うと不安

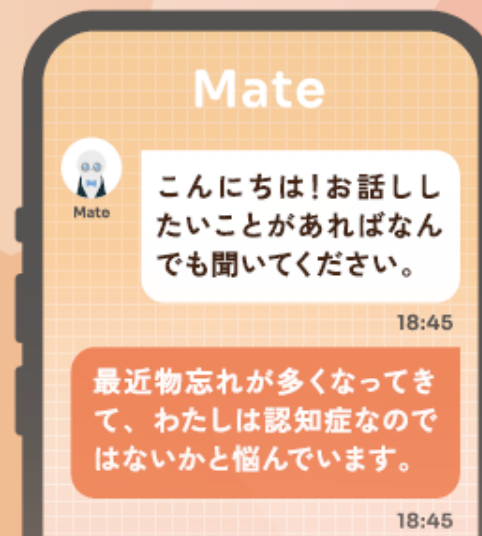
これからも今までどおり暮らせるか不安

ご家族の悩み

家族が同じ話を繰り返すようになった

病院に行ってほしい。でもどう伝える？

対応に疲れてしまい、この先のことが不安



▶WEBかLINE上の画面に文字を入力するだけ・匿名でOK

特徴と利用の流れ

AI相談の特徴

01



利用は無料
匿名で話せます

02



24時間365日
いつでもお話できます

03



気持ちや考えが
まとまっていなくても大丈夫

AI相談の利用の流れ

01

お話する

まとまっていない
気持ちや不安など、
そのままで大丈夫です

02

AIが
整理してくれる

お話を聞きながら、
気持ちや状況を一緒に整理します

03

今後の
選択肢を知る

今できることや相談先など、
複数の選択肢をご案内します

AI相談の使い方

使い方

Web版



二次元コード
からアクセス



右下のアイコンをクリックして
チャット開始(会員登録不要)
※画像はイメージです。

LINE版



二次元コードから
「奈良市寄り添いAI相談」
を友だち追加



トーク画面で
そのまま入力するだけ

(参考)会社概要等

【委託業者】株式会社リプロネクスト

【契約期間】R8年8月～R10年7月まで(2年間)

株式会社リプロネクスト について

XR・メタバース・AIアバターの技術を活用し、その中の1つとして自治体の住民サービスの支援も実施しています。対話型AIコンシェルジュを全国にわたって自治体に提供しており、奈良市認知症高齢者等AI相談事業では、傾聴と共感を土台とした伴走型のAI相談を構築・運用します。

会社名 株式会社リプロネクスト

代表者 代表取締役 藤田献児

本社 〒950-2013 新潟県新潟市西区小針が丘2番54号2階

拠点 東京オフィス 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1丁目10-5 渋谷プレイス

事業内容 対話型AIコンシェルジュの開発・運用ほか、メタバース(Roomiq)、VR、AR

【発注方法】プロポーザル方式

(実施日)令和8年7月13日

(参加社数)3社